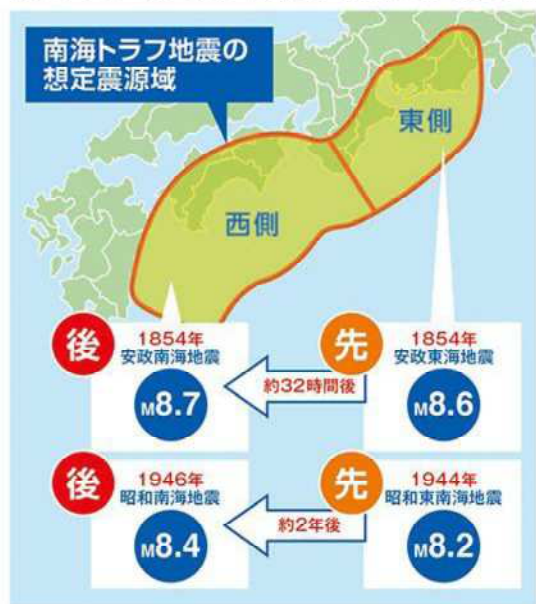


# 南海トラフ地震臨時情報とは

南海トラフでは、想定震源域の東側と西側で時間差で、大規模地震が発生した事例が複数回あります。



図：過去の南海トラフ地震(Mはモーメントマグネチュード)

南海トラフ地震臨時情報(以下、「臨時情報」といいます)は、南海トラフ全域を対象に地震発生の可能性の高まりについてお知らせするもので、想定震源域内で大規模地震や地殻変動など異常な現象が観測された場合に、気象庁より発表されます。

例えば、過去の事例とは逆に南海トラフ沿いの西側で先に大規模地震が発生し、東側でも地震が続発する(後発地震)可能性が高まった場合などに発表されます。

臨時情報が発表された際は、後発地震に備え、国や市からの呼びかけに応じた防災対応をとりましょう。

## 1854年安政東海地震と安政南海地震

南海トラフの東側で地震が発生した約32時間後に、西側でも地震が発生

## 1944年昭和東南海地震と昭和南海地震

南海トラフの東側で地震が発生した約2年後に、西側でも地震が発生

# 臨時情報が発表される「異常な現象」とは

臨時情報が発表される異常な現象には、「半割れケース」「一部割れケース」「ゆっくりすべりケース」の3通りがあります。

## 半割れ(大規模地震M8.0以上)/被害甚大ケース

〈評価基準〉

・南海トラフの想定震源域内のプレート境界においてM8.0以上の地震が発生した場合

南海トラフの西側でM8クラスの地震が発生



半割れケースにおいて、7日以内に大規模な後発地震が発生する頻度は十数回に1回程度(過去の事例では、103事例中7事例あり)で、通常の100倍程度の確率。

※通常「30年以内に70~80%」の確率を7日以内に換算すると千回に1回程度

南海トラフ地震臨時情報(巨大地震警戒)発表

## 一部割れ(前震可能性地震M7.0以上8.0未満)/被害限定ケース

〈評価基準〉

・南海トラフの想定震源域及びその周辺においてM7.0以上の地震が発生した場合(半割れケースの場合を除く)

南海トラフで地震(M7クラス)が発生

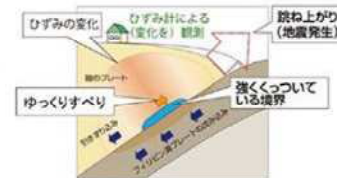


一部割れケースにおいて、7日以内に大規模な後発地震が発生する頻度は数百回に1回程度(過去の事例では、1437事例中6事例あり)で、通常の数倍程度の確率。

## ゆっくりすべり/被害なしケース

〈評価基準〉

・ひずみ計等で有意な変化として促えられる、短い期間にプレート境界の固着状態が明らかに変化しているような通常とは異なるゆっくりすべりが観測された場合



南海トラフ地震臨時情報(巨大地震注意)発表

南海トラフ沿いで発生した異常な現象に応じて、以下の情報が発表されます。

南海トラフ地震臨時情報	調査中	■ 観測された異常な現象が南海トラフ沿いの大規模な地震と関連するかどうか調査を開始した場合、または調査を継続している場合
	巨大地震注意	■ 南海トラフ沿いの想定震源域内のプレート境界においてM7.0以上M8.0未満の地震や通常と異なるゆっくりすべりが発生したと評価した場合等 ※情報発表後7日以内に、南海トラフ沿いで巨大地震が発生する確率は通常の数倍程度の状態
	巨大地震警戒	■ 南海トラフ沿いの想定震源域内のプレート境界においてM8.0以上の地震が発生したと評価した場合 ※情報発表後7日以内に、南海トラフ沿いで巨大地震が発生する確率は通常の数倍程度の状態
	調査終了	■ 巨大地震警戒、巨大地震注意のいずれにも当てはまらない現象と評価した場合